

八戸短期大学における、男女共同参画社会に関する アンケート調査、結果報告

A Result of a Questionnaire Concerning the Joint Society of Men and Women
in Hachinohe Junior College

大久保 等

八戸短期大学における、男女共同参画社会に関する アンケート調査、結果報告

A Result of a Questionnaire Concerning the Joint Society of Men and Women
in Hachinohe Junior College

大久保 等

1. はじめに (アンケート調査の目的)

ここ数年来、男女共同参画社会の実現を望む声が、働く女性を初め、各行政機関、社会の各方面から言われている。

この時期に当たり、本学において、男女共同参画社会について学生がどう考えているのか、アンケート調査を実施した。

以下は、その結果についてまとめたものである。

2. アンケート調査の実施状況

(1)対象者

光星学院 八戸短期大学 全学生

(2)アンケート実施時期

平成10年9月7日(月)～9月11日(金)

(3)アンケート実施者

幼児教育学科教員 福士 環子
経営情報学科教員 大久保 等

(4)有効回答数(N)

表1 有効回答数

	女子	男子	合計
幼児教育学科	177	7	184
経営情報学科	73	38	111
合計	250	45	295

(注1)表内の数値は、人数を示す。

(注2)以下、「幼児教育学科」は「幼教」、「経営情報学科」は「経情」と示す。

(5)アンケートの調査概要

- ①男女互恵に関する意識
- ②女性有職の是非と有職期間
- ③女性が働く社会環境
- ④家庭内労働(家事・育児)分担
- ⑤晩婚化について
- ⑦性のやり直し希望

3. アンケートの調査内容

アンケートの調査内容を、資料に添付した(資料1)。

4. アンケート調査結果と、その考察

設問1 あなたは、女性と男性がもっと互いの性を尊重しあい、人生のあらゆる場面で、持っている能力を十分に発揮し、生き生きと輝いた人生を送ることを望んでいますか。

1 はい 2 いいえ

	幼 教	経 情	全 体
1	180(97.8%)	102(91.9%)	282(95.6%)
2	4(2.2%)	9(8.1%)	13(4.4%)

男女の互惠を希望し、共同参画社会への意識があるかどうかを問う、質問項目である。

全回答者295人中、282人(95.6%)が「はい」と答えており、意識が高いと言える。

設問2 それを実現するために、これから必要だと思われることは、何だと思えますか。該当するものを3つまで回答して下さい。

- 1 社会的慣習やしきたりを見直す
- 2 「女だから」「男だから」という考えをやめて、行動範囲を広げる
- 3 男性が、家事や育児や地域活動にもっと積極的に参加する
- 4 女性が経済的に自立できるように、賃金等の雇用条件を改善する
- 5 女性が地域活動等の社会参加に積極的に取り組む
- 6 男女平等教育に力を入れる
- 7 女性議員を増やし、政策決定の場に女性を登用する
- 8 育児や介護の社会的支援体制をもっと

整備する

- 9 女性を取り巻く社会環境は、今のままで充分である
- 10 その他
()

	幼 教	経 情	全 体
1	41(22.3%)	31(27.9%)	72(24.4%)
2	121(65.8%)	69(62.2%)	190(64.4%)
3	96(52.2%)	51(45.9%)	147(49.8%)
4	83(45.1%)	44(39.6%)	127(43.1%)
5	18(9.8%)	9(8.1%)	27(9.2%)
6	41(22.3%)	31(27.9%)	72(24.4%)
7	18(9.8%)	10(9.0%)	28(9.5%)
8	81(44.0%)	42(37.8%)	123(41.7%)
9	4(2.2%)	4(3.6%)	8(2.7%)
10	4(2.2%)	2(1.8%)	6(2.0%)

男女の互惠と、男女共同参画社会実現のための方策を問う、質問項目である。

回答者数が1番多いのは、「2 『女だから』『男だから』という考えをやめる」が、64.4%であり、社会的な性区別意識の除去が必要だと考えている。次いで2番目は、「3 男性が、家事や育児や地域活動にもっと積極的に参加する」(49.8%)であり、男性の意識改革が必要だと答えている。また、「4 女性が経済的に自立できるように、賃金等の雇用条件を改善する」(43.1%)は、企業に対する要望であり、「8 育児や介護の社会的支援体制をもっと整備する」(41.7%)や、「6 男女平等教育に力を入れる」(24.4%)は、主に行政や教育機関が中心になって行うべき方策だと考える。「1 社会的慣習やしきたりを見直す」(24.4%)を含めて考えると、まず、こ

れまで行われてきた男女の区別、性的役割分担の意識を止める。その具体的な方策として、男性側や企業、行政、教育機関が行動する必要がある、ということが言えるであろう。

「10 その他」を選んだ人のコメントを挙げる。但し10番を選ばないでコメントを書いた回答もあり、それも併せて挙げておく。「暴力反対」（2人）、「男女平等より、女性によりよい社会にする」（1人）、「女性の総理大臣が必要」（1人）、「女と男の違いを認めて、お互いが尊敬し合う社会にする」（1人）、「性別は個性と捉えるべきで、男女を大別する考え方を止めるべきだ」（1人）、「自分のことは自分でやる」（1人）、であった。

筆者は、男性の意識改革はだいぶ進んで来ていると考えている。大学教職員や文筆業など、比較的自由時間の多い職業の男性が、家事や育児の分担を請け負っている、という話をよく聞くからである。問題は、世界第2位の国民総生産を実現している経済大国としての日本の在り方にあると考える。資源の少ない国土でありながら、先進工業国としての工業力を維持するには大変な努力を必要とする。そのため、高労働価値を付加した工業製品の輸出で、経済大国としての地位を維持している。実際、日本の工業製品は、痒いところに手が届くようによくできている、というのはよく聞く話である（これは、日本の商業、教育・医療産業、ホテル業、交通機関などのサービス産業における、充実したサービスぶりについても言えることである。商店の過剰包装や各教育機関で行う補習授業、駅構内での案内放送など、考えてみれば、減らして構わない過剰サービスが日常的に行われてい

る）。日本が中堅経済国の地位に甘んじれば、男性労働者の自由時間が増えて、家事や育児など家庭内労働時間の確保が可能になると考える。問題は、日本が中堅経済国の地位に後退することを、男性も女性も、政治家も労働者も、国民皆が認めるかどうか、にあると考える。それは当然、各個人の生活や家庭、社会生活において、現在の快適な生活レベルが下がる（不便になる）ことだと、考えている。

設問3 あなたは、女性が職業を持つことについてどう思いますか。

- 1 職業は自己研鑽の一つとしてずっと続ける
- 2 結婚あるいは出産までは、職業を持った方がよい
- 3 子育て期間がある程度終わったら、再就職する
- 4 家庭も大事なので、職業を持つことは止めたほうがよい
- 5 家計の一部を支えるために必要
- 6 それぞれの人生観で、選択は自由だと思う

	幼 教	経 情	全 体
1	19(10.3%)	19(17.1%)	38(12.9%)
2	21(11.4%)	11(9.9%)	32(10.8%)
3	37(20.1%)	12(10.8%)	49(16.6%)
4	1(0.5%)	2(1.8%)	3(1.0%)
5	29(15.8%)	6(5.4%)	35(11.9%)
6	124(67.4%)	82(73.9%)	206(69.8%)

この設問について、女性と男性それぞれにおける回答も示す。全体の合計は同じになる。

	女性	男性
1	31(12.4%)	7(15.6%)
2	21(8.4%)	11(24.4%)
3	44(17.6%)	5(11.1%)
4	1(0.4%)	2(4.4%)
5	33(13.2%)	2(4.4%)
6	178(71.2%)	28(62.2%)

女性の有職の是非と有職期間に関する、質問項目である。

1番多い回答は、「6 それぞれの人生観で、選択は自由だと思う」(全体では69.8%、女性で71.2%、男性で62.2%)であり、これは個人重視の時代背景を反映していると考えられる。しかし、次に多い回答としては、女性が「3 子育て期間がある程度終わったら、再就職する」(17.6%)、「5 家計の一部を支えるために必要」(13.2%)、「1 職業は自己研鑽のひとつとしてずっとずっと続ける」(12.4%)と、職業を持つことに前向きなのに対して、男性では2番目に多い回答が「2 結婚あるいは出産までは、職業を持った方が良い」となっており、女性が職業を持つ期間に期限を設けている。これは男性側の気持ちとして、女性にやはり家庭を重視して欲しい、という希望が現れているものと思われる。

設問4 現在の女性の働く環境について、どのように感じていますか(2つまで)。

- 1 男は仕事、女は家庭という社会通念があり、働きにくい
- 2 女性の職種が限られていて、希望する仕事を選択できない

- 3 女性の能力を十分に評価して貰えない
- 4 家庭や育児と両立させるための労働条件、環境が整っていない
- 5 結婚、出産退職が慣習となっている
- 6 昇進、教育訓練等で、女性への差別的な扱いがある
- 7 男女とも能力に応じた、適切な配置と賃金で不満はない
- 8 職業についていないので分からない

	幼教	経情	全体
1	22(12.0%)	15(13.5%)	37(12.5%)
2	47(25.5%)	30(27.0%)	77(26.1%)
3	42(22.8%)	30(27.0%)	72(24.4%)
4	89(48.4%)	35(31.5%)	124(42.0%)
5	32(17.4%)	15(13.5%)	47(15.9%)
6	33(17.9%)	26(23.4%)	59(20.0%)
7	2(1.1%)	6(5.4%)	8(2.7%)
8	47(25.5%)	28(25.2%)	75(25.4%)

女性が働く際の社会的環境についての質問である。

1番多い回答は、「4 家庭や育児と両立させるための労働条件、環境が整っていない」(42.0%)であり、以下、「2 女性の職種が限られていて、希望する仕事を選択できない」(26.1%)、「3 女性の能力を十分に評価してもらえない」(24.4%)、「6 昇進、教育訓練等で、女性への差別的な扱いがある」(20.0%)となっており、やはり女性が働く際の社会的環境整備が十分に整っていないと感じている学生が多いことを示している。「8 職業についていないので分からない」と答えた回答が25.4%あったが、今回、この考察においては、考察の対象から除外した)

設問5 家庭の中で、家事・育児についてどのように考えていますか。

- 1 男性も家事・育児をするのは当然である
- 2 何かあった時のために、男性も家事・育児を覚えておくべきである
- 3 家庭の事は、女性が主導権を持ち、無理に男性にさせることはしない
- 4 男性の収入だけで生活できるのであれば、家事・育児は女性の仕事
- 5 仕事をしている女性であれば、男性も家事・育児を分担すべきである
- 6 家庭の仕事は全て、両方の了解のもとに分担していけばいい

	幼 教	経 情	全 体
1	48(26.1%)	35(31.5%)	83(28.1%)
2	65(35.3%)	36(32.4%)	101(34.2%)
3	6(3.3%)	5(4.5%)	11(3.7%)
4	12(6.5%)	7(6.3%)	19(6.4%)
5	50(27.2%)	23(20.7%)	73(24.7%)
6	80(43.5%)	34(30.6%)	114(38.6%)

この設問について、女性と男性それぞれにおける回答も示す。全体の合計は同じになる。

	女 性	男 性
1	69(27.6%)	14(31.1%)
2	84(33.6%)	17(37.8%)
3	9(3.6%)	2(4.4%)
4	15(6.0%)	4(8.9%)
5	66(26.4%)	7(15.6%)
6	104(41.6%)	10(22.2%)

家庭内労働（家事・育児）の分担に関する質問である。

1番多い回答は「6 家庭の仕事は全て、両方の了解のもとに分担していけばいい」(38.6%)であり、各家庭毎にそれぞれ個別の分担の在り方を指向しているようで、男女共同参画家庭の考え方が見えるように思われる。しかし、女性の回答と男性の回答は多少異なっている。女性の1番は上述の「6 家庭の仕事は全て、両方の了解のもとに分担していけばいい」(41.6%)であり、2番は「2 何かあった時のために、男性も家事・育児を覚えておくべきである」(33.6%)、3番は「1 男性も家事・育児をするのは当然である」の順番になっている。これに対して、男性の1番は「2 何かあった時のために、男性も家事・育児を」(37.8%)であり、以下、「1 男性も家事・育児をするのは当然」(31.1%)、「6 家庭の仕事は全て、両方の了解のもとに」(22.2%)の順になっている。このように、男女で多少の温度差を感じるのである。

回答群に、「4 男性の収入だけで生活できるのであれば、家事・育児は女性の仕事」と逆の内容、つまり「女性が高収入であり、女性の収入だけで生活できるのであれば、家事・育児は男性の仕事」という回答項目を設けても良かったと思う。

設問6 日本では男女とも、結婚する年齢が高くなる、いわゆる晩婚化が進んでいます。その理由について、どのように考えますか（いくつでも）。

- 1 独身生活の方が自由だから

- 2 結婚しなくても、社会的に影響されなくなってきたから
- 3 仕事を続けるためには、結婚しない方が有利だから
- 4 女性の経済力が向上したので、無理に結婚する必要がないから
- 5 社会慣行としての、見合いが減少したから
- 6 親離れ(子離れ)ができていないから
- 7 結婚により、家事・育児の負担が重いから
- 8 個人的な問題だと思うから、特に考えたことはない

	幼 教	経 情	全 体
1	83(45.1%)	54(48.6%)	137(46.4%)
2	55(29.9%)	26(23.4%)	81(27.5%)
3	44(23.9%)	21(18.9%)	65(22.0%)
4	79(42.9%)	37(33.3%)	116(39.3%)
5	6(3.3%)	8(7.2%)	14(4.7%)
6	8(4.3%)	4(3.6%)	12(4.1%)
7	45(24.5%)	16(14.4%)	61(20.7%)
8	39(21.2%)	24(21.6%)	63(21.4%)

晩婚化についての質問である。

1番回答数が多いのは「1 独身生活の方が自由だから」(46.4%)であり、個人生活重視の現代社会の風潮を反映しているように思われる。2番は「4 女性の経済力が向上したので、無理に結婚する必要がないから」(39.3%)になっている。これは何十年か前の社会通念、女性は結婚して夫に食べさせて貰わなければ生きていけない、という経済的拘束力が、現在では既に存在しないことを示している。

結婚が女性にとって生きて行く経済的手段でなくなった現在、そしてこれからの時代、何のために結婚するのか、それぞれの女性にとって問題になっていると思われる。全体として男性、女性共に、「独身生活の方が自由だから」結婚しないのであり、そういう個人生活重視の現代において、結婚する意味が人類の子孫を残すためだけであれば、誰か他の人に任せておけば良い、という話になる。また、「愛情が結婚する理由である」という人は多いが、感情というのは変わりうるものであり、一生続く愛情というのは一般的にみれば例外の範疇に含まれると考えたほうが良い。これまでの結婚は一生続くものであったが、個人生活重視の現代においては、例えば、「同居しない結婚」など、今までと違うかたちの結婚が求められているのかもしれない。

設問7 今度生まれてくるとしたら、あなたはどちらに生まれたいですか。

- 1 女性
- 2 男性
- 3 どちらでも良い

その理由は

()

	幼 教	経 情	合 計
1	97(52.7%)	37(33.3%)	134(45.4%)
2	38(20.7%)	43(38.7%)	81(27.5%)
3	47(25.5%)	30(27.0%)	77(26.1%)

この設問について、女性と男性それぞれにおける回答も示す。全体の合計は同じになる。

	女 性	男 性
1	131(53.0%)	3(6.7%)
2	51(20.6%)	30(66.7%)
3	65(26.3%)	12(26.7%)

理由の主なものを挙げると次の通りである。理由として幾つかの事柄を述べた回答があり、それは、それぞれの事柄に分けて数えた。

まず、現在女性で、次も女性を希望する理由は、「女性に生まれて楽しい、良かった。満足している」(41人)、「女性のほうが社会や家庭において楽である、得する。男性は仕事の責任や家族を養う責任を負わされる」(24人)、「出産が経験できる。子供を育てる喜びが大きい」(16人)、「化粧やお洒落を楽しめる」(8人)、「何となく」(7人)などとなっている。少数意見としては、「女性特有のスポーツや仕事をしたい」(3人)、「これからは女性の時代だから」(2人)、「性別は関係ない。自分が現在の性をいかに生きるかである」(1人)、「女性のちからを社会に認めさせたい」(1人)などの意見があった。

次に、現在女性で、次は男性を希望する理由は、「男性には、社会的にまた家庭的に行動の自由がある。男性は職業選択で有利、給料が高い。家庭では家事・育児をしなくて済む」(20人)、「男性の逞しさ、さっぱりした気性が好き。男性の考え方を経験したい」(17人)、「男性には生理が無くて良い。出産しなくて済む」(7人)、「男性特有のスポーツ(特に野球)や仕事がしたい」(4人)などであった。

現在女性で、次がどちらでも良い理由は、「それぞれに特性があり比較できない。どち

らにも損得、苦楽はある」(19人)、「何となく。分からない。考えた事が無い」(10人)、「理由は無いがどちらでも構わない」(9人)などである。少数意見としては、「性別は関係ない。性別も一つの個性であり、個人が大切である」(1人)などとなっていた。

逆に、現在男性で、次は女性を希望する理由は、「出産を経験したい」(1人)、「何となく」(1人)だった。

また、現在男性で、次も男性を希望する理由は、「男性に生まれて楽しい、良かった。満足している」(10人)、「男性は、社会的にまた家庭的に行動の自由がある」(9人)、「何となく、分からない」(5人)などであった。

現在男性で、次がどちらでも良い理由は、「何となく。分からない。考えた事が無い」(5人)、「理由はないがどちらでも良い」(3人)などとなっている。

性のやり直し希望についての質問である。

女性の53.0%、男性の66.7%が、「今度生まれてくるとしたら」、現在と同じ性に生まれると希望している。これは、現在の性に満足していることの現れだと考えられる。また、「どちらでも良い」と答えた人は、女性で26.3%、男性で26.7%おり、現代においては、どちらかの性にとって生活し易く、他方の性にとって生活し難い、というような生活環境の違いはそれ程無いと感じられているのであろう。ただし、女性の20.6%は男性に変わりたいと答えており、これは男性における女性に変わりたい6.7%に比べて高い数値になっている。これは、現代においても、男性のほうが生活し易い社会になっていると感じている女性が多い、ということの現れであろう。

以上の考察について、理由を訊ねた自由記述欄の記述内容をも、その傾向が現れていると考える。

5.まとめ

設問2の考察でも一部述べた通り、女性の社会進出を可能にするためには、今まで女性の役割と捉え勝ちだった家庭内労働（家事・育児、これからは介護も含まれる）を、今後誰が担うのか、という問題があると思う。男性が担うためには、設問2の考察で述べた通り、日本は中堅経済国の地位まで後退すべきだと考えている。現状の経済大国のまま、女性の社会進出を可能にするためには、家庭内労働を第三者に依頼する以外に方法が見当たらない。それは、欧米の家庭の一部や、マレーシア、シンガポールなど、経済発展の目覚ましい東南アジアの家庭で行われているように、家政婦（または家政夫）を雇用する、ということであるかもしれない。しかし人件費の高い日本で、家政婦を雇うのは難しい。

その他に、家庭内労働を個別に外注する方法が考えられる。食事は外食や中間食と呼ばれるお弁当類で済ませる。育児は0才児保育、延長保育などを利用する。介護もデイサービスなどを個別に利用する、などである。最近、中間食産業の売上げが大きく伸びていることや、無認可ではあるが0才児保育施設の増加傾向、老人保健施設のデイサービスの拡充などが強く求められていること、などを見れば、日本の将来は、この方向、つまり家庭内労働の個別外注の方向に進んで行くだらうと考える。

参考資料

大久保等、福士瓊子；「学生生活に於ける男女平等意識」八戸短期大学紀要第18巻（1995）、19頁～48頁

(資料1)

男女共同参画社会実現にむけての
アンケート調査

世界人口の約半数を占める女性は、現在様々な分野で活躍出来るようになりましたが、まだまだ多くの差別を受けたり、暴力の被害にあったり、女性であるという理由だけで、男性との平等で、思いやりのあるパートナーシップ、女性の意見が十分に反映された社会状況になっていません。

設問1 あなたは、女性と男性がもっと互いの性を尊重し合い、人生のあらゆる場面で、持っている能力を十分に発揮し、生き生きと輝いた人生を送ることを望んでいますか？

- 1 はい 2 いいえ

設問2 それを実現するために、これから必要だと思われることは、何だと思えますか？
該当するものを3つまで回答して下さい。

- 1 社会的慣習やしきたりを見直す
- 2 「女だから」「男だから」という考えをやめて、行動範囲を広げる
- 3 男性が、家事や育児や地域活動にもっと積極的に参加する
- 4 女性が経済的に自立できるように、賃金等の雇用条件を改善する
- 5 女性が地域活動等の社会参加に積極的に取り組む
- 6 男女平等教育に力を入れる
- 7 女性議員を増やし、政策決定の場に女性を登用する
- 8 育児や介護の社会的支援体制をもっと整備する
- 9 女性を取り巻く社会環境は、今のままで充分である
- 10 その他

()

設問3 あなたは、女性が職業を持つことについてどう思いますか

- 1 職業は自己研鑽のひとつとしてずっと続ける
- 2 結婚あるいは出産までは、職業を持った方が良い

- 3 子育て期間がある程度終わったら、再就職する
- 4 家庭も大事なので、職業を持つことは止めた方がよい
- 5 家計の一部を支えるために必要
- 6 それぞれの人生感で、選択は自由だと思う

設問4 現在の女性の働く環境について、どのように感じていますか（2つまで）

- 1 男は仕事、女は家庭という社会通念があり、働きにくい
- 2 女性の職種が限られていて、希望する仕事を選択できない
- 3 女性の能力を十分に評価してもらえない
- 4 家庭や育児とを両立させるための労働条件、環境が整っていない
- 5 結婚、出産退職が慣習となっている
- 6 昇進、教育訓練等で、女性への差別的な扱いがある
- 7 男女とも能力に応じた、適切な配置と賃金で不満はない
- 8 職業に就いていないので分からない

設問5 家庭の中で、家事・育児等についてどのように考えていますか

- 1 男性も家事・育児をするのは当然である
- 2 何かあった時のために、男性も家事・育児を覚えておくべきである
- 3 家庭の事は、女性が主導権を持ち、無理に男性にさせることはしない
- 4 男性の収入だけで生活できるのであれば、家事・育児は女性の仕事
- 5 仕事をしている女性であれば、男性も家事・育児を分担すべきである
- 6 家庭の仕事は全て、両方の了解のもとに分担していけばいい

設問6 日本では男女とも、結婚する年齢が高くなる、いわゆる晩婚化が進んでいます。

その理由について、どのように考えますか（いくつでも）

- 1 独身生活の方が自由だから
- 2 結婚しなくても、社会的に影響されなくなってきたから
- 3 仕事を続けるためには、結婚しない方が有利だから
- 4 女性の経済力が向上したので、無理に結婚する必要がないから
- 5 社会慣行としての、見合いが減少したから

- 6 親離れ（子離れ）が出来ていないから
- 7 結婚により、家事・育児の負担が重いから（特に女性にとって）
- 8 個人的な問題だと思うから、特に考えたことはない

設問7 今度生まれてくるとしたら、あなたはどちらに生まれたいですか

- 1 女性
- 2 男性
- 3 どちらでも良い

その理由は

- ・あなたの年齢 10代 20代 30代 40代 50代
 60代 70代
- ・あなたは 男性 女性

ご協力ありがとうございました。

1998・9調査